



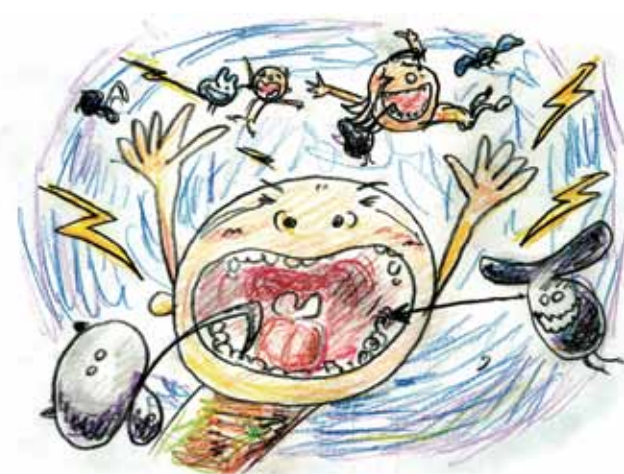
それは西暦2009年、いまから4471年前のことじゃ。
このリトルデンタルタウンに史上空前の大ピンチがやってきた。そう、あの悪魔どもがこの街にやってきたのじゃ。ワシはこの街リトルデンタルタウンに住み、今では皆に長老と呼ばれている「デンターニャ爺」じゃ。いまじゃスッカリ老いぼれじゃが、昔はなかなかの色男じゃったんじゃぞ。フォォフォォ。



ワシははるか遠くのデンタル星からたった一人で、この地球にやってきたんじゃ。やってきた目的？そりゃ、この地球という星に、キレイで、丈夫で、健康な歯になるための「知識と予防と勇気と治療」の教えを伝えにきたんじゃよ。まあ、デンタル星というのはそんな星なんじゃ。銀河系のたくさんの惑星の歯を我々デンタル星のデンタル族がみているんじゃ。まあ、一人前になるまでは、自分の星でみっちり修行をさせられるんじゃがな。

で、ワシが地球にやってきたのは199X年。山と海に囲まれたこの美しい土地に、ワシはひとり、街をつくったんじゃ。そして地球に住む人間たちのために、日々デンタルの教えを説き、歯が痛いものがいれば治し、できるだけたくさんの人々がキレイで健康な歯でいられるよう励んだのじゃ。

それからというもの、たくさんの人々がこの地を訪れるようになり、やがて移り住みつくようになり、いつしか街は「リトルデンタルタウン」と呼ばれるようになったんじゃ。それはそれは、みんなの笑顔と白い歯があふれるハッピーな街じゃった。…そんな矢先の出来事じゃった。あの地獄のような情景は、いまでもこの目にクッキリと焼きついておる。



あいつらがやってきたあの日。空は暗黒の闇に包まれ、あたりはものすごい悪臭に襲われた。あの恐ろしいフランク大魔王たちが、いきなりこの街を襲いにやってきたのじゃ。やつらは銀河系の悪の吹き溜まり、ミュートランス星に住み、ワシらデンタル族のジャマばかりをしよる悪者じゃ。歯を汚したり、臭くさせたり、痛くさせたりと、悪いことばかりをしよる。そして、この街を襲いにやってきたのが、一番のボス、フランク大魔王じゃ。たくさん手下どもを引き連れ、フランク大魔王は人間たちの歯を襲いにかかった。ひとりふたりの相手であれば、ワシの力でもじゃうぶん防戦できたのじゃが、なにしろこのときは相手の数がハンパじゃなかった。



とにもかくにも、やつらは健康だったみんなの歯を壊しはじめたのじゃ。このままでは、みんなの歯はズタボロ！街すべてが壊滅してしまう。これはもうお手上げだと思ったワシは、デンタル星を去るときに国王から持たされた袋のことを思い出したんじゃ。

国王は言った。「何事もあきらめてはならぬ。そして、まずは一人で頑張る！ことが大切じゃ。しかし…どうしても、と～しても、本当にダメだと思ったときがあれば…、この袋を開けなさい。これはカンニン袋という。ただし使えるのは一度きり。きっと、おぬしを助けてくれるであらう。そのときが来るまでは決して袋の中を開けてはいかんぞ。絶対にじゃ…。」



ワシはすぐさま書斎へ向かい、机の引き出しにしまっておいたその袋を取り出し、慌てて開けてみた。すると袋からは親指ほどの大きさをしたこれまでに見たこともない4つの美しい石が出てきた。緑、青、桃、黄と、それはそれはキレイな石じゃった。しかし、石はキラキラと輝いたままで、その後、何かが起きる気配はまるでなかった。ワシは焦りはじめた。外ではあいかわらずフランク大魔王たちが好き放題に暴れているのに、その石ときたらただ光っているだけで何も起こらねはないか！？国王がくれたこの石はいったい何なんじゃ！？ワシはいてもたってもいられなくなり、「もう我慢できん！この役立たずな石ころどもめっ！」とその4つの石を窓の外に投げ捨てたんじゃ。と、その時じゃった。宙に放り出された4つ石が、一気にピカーッと光り輝いた。そして緑、青、桃、黄の4色の目映い柱がぴかぴかり、あたりはものすごい眩しさに包まれたのじゃ。光の柱は伸び続け、何かを導くかのごとく、天高くまで伸びていった。そして、現れたんじゃ。本当に信じられない光景じゃった。



そう現れたのは、なんと我がデンタル星で遙か昔から、物語として語り継がれてきた4人の妖精。「知識の精、マナブン」「予防の精、ケアルン」「勇気の精、ココロン」「治療の精、キュアルン」。

驚いたのはワシだけじゃなかった。街のみんなはもちろん、何よりもフランク大魔王のあのときのマヌケ面といったら。とにもかくにも、フランク大魔王は4人の妖精を見るやいなや、闘うどころか恐れをなして、いちもくさんで逃げよったわ。



そして4人の妖精たちは、やられたみんなの歯をすぐさま治し、ワシにこれからもこの街をよろしくと告げた。そして最後に、街のみんなへ「デンタル星の教え、知識と予防と勇気と治療をカンペキに守れば、もうフランク大魔王のような悪いやつらは決してやってこないでしょう。私たちは、もういってしましますが、代わりにこのデンターニャの言うことをよ～く聞くのです。そうすれば、いつまでも美しい健康な歯でいることができます。」と言った。そのとき誰かが「せっかく来てくれたのに、どこへ行ってしまふのですか？もう少しこの街にいてください。」とお願いをした。すると「大丈夫。私たちは行ってしまふといっても、じつはあなたたちのすぐ側にいます。」誰もが言葉の意味をわからずいると…。「そう、わたしたちは、あなたたち一人一人の心の中に住むのですから。」そう言い終わると、4人の妖精たちはまた光の柱になって、天高く上ってしまったんじゃ。



以来、このリトルデンタルタウンでは、彼らは街を救った伝説のヒーローとして語り継がれておる。街をみてもらえればわかるじゃろ。彼らをモチーフにした看板やら建物がいっぱいある。みんなに愛され慕われておるんじゃよ。で、彼らの4つの教えも、今ではすっかり暮らしの一部としてこの街では浸透しているんじゃ。おかげでこの街に住むものは全員、美しく健康な歯をしておる。まあ、こんな愛と勇気と美しく健康な歯の街、リトルデンタルタウンにみんなも住んでみないか？誰でも大歓迎じゃよ。フォッフッフッフ。

Little Dental Town